問題の所在

『維摩経玄疏』（以下『玄疏』と『維摩経文疏』（以下『文疏』）を目的として撰述された文献である。かつ佐藤哲英博士は「国清百録」の分析を通じて、これらの文献の複雑な粒繊を明らかにし、その結果を「三回献説」として提起した。この説に基づくと、現在する『三観解釈』は初回目を献上された『十巻玄疏』の主たる内容にあたり、『玄疏』を基本としつつ一巻にまとめられたと考えられている。そこで、これらは『玄疏』の別行本、または離出本と称されるのである。このグループによく、『玄疏』と別行本は、内容的にも構成的にも概ね同様の性格が認められるが、詳細にこれらを対照すると様々な異同があることが先行研究によって明かされている。

『玄疏』は三回の献上をうけての第一回献上本、十巻玄義に基づくとされるが、次の三点をどう解釈するかが問題となる。

第一は、「国清百録」王訥義疏書第五十一によれば、「初卷玄義疏」には「未曾問」の四悉檀義が、現在の『玄義疏』には「三観解釈」の四悉檀義が、既に『初巻義疏』にあったとすると、四巻『大正三版』四巻「四巻文疏」中に智円が『四悉檀義』といった項目が残る。第二は、「玄義」とは『三観解釈』の前に「翻訳名義」という項目があるが、『三観義』『四教義』ともにこれに対応する箇所を含んでいない。また、『玄義』の『翻訳名義』

印度学仏教学研究第十六巻第二号 平成二十四年三月
つまり、五重玄義のうちの名玄義には先の「翻訳名義」、「三観解釈」、「四教分別」に続いて、「論名通梵」を含む第四の項目が立てられるが、これについては別行本の中に対当する箇所はない。「十巻玄義」が「玄疏」の巻第二以降、どの範囲を説いていたかについては疑問がある。第三は、十巻玄義には、果たして「玄疏」が骨子とする五重玄義の構想がそもそもあったのかという問題である。これらの問いに対し佐藤博士の見解は、要約すると以下の通りである。通覧六意のような構成があった可能性を示唆する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられ、献上されたとき、「四教義」に相当する部分までまとめられるべきである。
三、『三観義』と『文疏』の関係

や、『四教義』と『二観義』の関係に於て、四教の内容が『文疏』から『四教義』へと編集され、両書の内容が紛乱しているようである。ただ、両書の内容を対照させると、ほぼ同様の内容が続く部分がある一方、大幅に削除されたり、新たな文章が加えられたりする箇所が見られる。特に四教以下に於て内容が絞られた場合、これに伴う内容の変化が見られる。このことから、四教のどの部分が『文疏』に移され、どの部分が削除されるか、大変重要な点である。
一、

等の一表がなう・悩煩題ね重生提「涅中、中中に、通って解観に中こはもら中九是行、心係れ上九は因る〇九るで。

観道仏典説経『当中だ、他あるにをあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ、用科乗相科乗れ。』

文の文の言はもれ合いに相相科乗れ、別の二行・言をあ、顕図第をて、因るも中、用相科乗行、用相科乗れ

〇国

(日 三) 数云伝れ「観対頭相観'